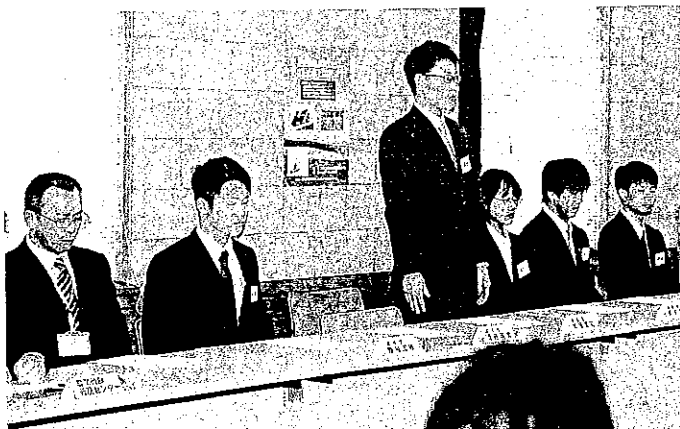


研修、就農者ら激励

道央農振公社

【道央】石狩管内のJ



受け入れ式で抱負を述べる
新規就農研修生（恵庭市で）

A道央と関

係4市が出資する道央農業振興公社は4月上旬、第1期新規就農研修生の受け入れ式を恵庭市で開いた。

同公社は、担い手別育成事業や農用地利調整、農業労働力確保など事業など

を行っている。新規就農研修生は、2008年から10年間で54人を受け入れた。

今年の研修生は21、36歳の6人。トレーニング圃場（ほじょう）や江別市の組合員の農場、同JAの営農センターで2年間、実践的に学ぶ。

研修生は、「農業を仕事にしたい」「農業を通じて、地元や地域に貢献したい」「トマトなどの施設園芸作物を中心に営農したい」「カボチャなどの西洋野菜を栽培したい」など、それぞれの決意や意気込み、抱負を話した。

同公社の松尾道義理事長（同JA組合長）

は、「自分一人では限界がある。サポートしてくれる人や地域の先輩方との交流が大切。周りの人たちを頼り、多くのこ

とを吸収してほしい。自らの夢の実現を目指し、研修でさまざまな経験を積んでほしい」と激励した。